

B—17 和服実習における縫製所要時間の分析

大谷女子短大 ○河野美代賀
阿部ふき子
三品 岡良

1. 和裁構成学に平行して行なう和裁実習に当たって、その縫製所要時間の観念については従来はただ漠然としたものであったが、実生活における能率化を計るために必要な条件である。そこで本学被服科の主な実習項目である女物単衣長着、女物袷長着、女物袷羽織について、あらかじめ構成学の課程において基礎理論をよく理解させながら1枚目を仕上げさせたのち、休暇を利用して2枚目を実習し、2枚目の所要時間を測定させた。

2. 時間の測定は縫製工程を(a)準備、(b)標付、(c)ぬい、(d)くけ、(e)その他に分類し、対象は単衣長着(1年夏期休暇129名)、袷長着(1年学年末休暇70名)、袷羽織(2年夏期休暇111名)とした。また特に縫製時間の遅速、技術の優劣に関しても標本を抽出し統計的に解析した。

3. 一般的に技術の優劣と縫製時間の速さの間には相関関係は認められない。しかし、羽織のぬいには技術のすぐれたグループは劣っているグループにくらべて多くの時間を要している。これは技術のすぐれているもの程丁寧に縫うことを示している。以上和裁実習を指導するに当たり特に初心者においては早く仕上げさせるという速度を問題にするよりも、基礎の技術に重点をおいて丁寧に仕上げるように心がけさせる教育が必要である。特にぬいの工程の指導即ち、基礎運針は大切であり、併わせてくけを練習することが技術面を向上させる最も必要な条件であると思われる。